

救急超音波講習会

Emergency Ultrasound Course

開催日: 2019年8月4日(日)

8:20~17:00予定(受付開始 8:00)

会 場: NATULUCK茅場町二号館 4階大会議室

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2-16-4 柴宗ビル

交通のご案内: 東京メトロ東西線「茅場町駅」

1番出口から徒歩3分

東京メトロ日比谷線「茅場町駅」

1番出口から徒歩3分



【参 加 費】 講義(AM)のみ(定員:14名):

医師 14,000円、メディカルスタッフ 12,000円

講義(AM) & ハンズオン(PM) (定員36名):

医師 28,000円、メディカルスタッフ 22,000円

【対 象】 超音波診療を学びたいすべての医療従事者

【お申し込み方法】 下記URLよりお申し込みください。

定員になり次第、締め切らせていただきます。

イベントペイ 救急超音波講習会 で検索

https://www.0553.jp/eventpay/event_info/?shop_code=0000001321788353&EventCode=8237339248



事前受付のお支払いはクレジットカードとコンビニ決済、ペイジーがご利用いただけます。

【問合わせ先】 救急超音波講習会事務局 (株式会社コンパス内)
〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目3-11 NCKビル 5F
TEL:03-5840-6131 FAX:03-5840-6130 担当:原田、濱
E-mail: euc@compass-tokyo.jp

主催: Team Ultrasound, PLCC

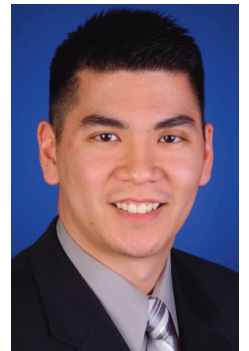
共催: 集中治療医療安全協議会、キヤノンメディカルシステムズ株式会社

協賛: 株式会社メディコン、株式会社八神製作所、日本シグマックス株式会社、
レールダル メディカル ジャパン株式会社

ご挨拶

Bedside Emergency Ultrasound, a technology with almost no contraindications, is now in high demand by all physicians, not just emergency physicians. Bedside, focused, point-of-care ultrasound is used daily for prompt and accurate diagnoses, for quickly identifying critical and life-threatening conditions. Ultrasound is also often used for assessment of volume responsiveness. Moreover, it has been shown to improve patient outcomes when those life-threatening conditions are identified early, ultimately guiding treatment at the bedside. Furthermore, clinical ultrasound has been demonstrated to decrease patient length of stay, improve ED throughput, and improve patient satisfaction. Finally ultrasound is quickly becoming standard of care for procedural guidance, including but not limited to vascular access, regional nerve blocks, abscess drainage, pericardiocentesis, paracentesis, and thoracentesis, overall decreasing morbidity and mortality.

ほぼ禁忌がないベッドサイドで行う救急超音波は、今や救急医のみならずすべての医師にとって大きな需要があります。ベッドサイドで焦点を絞ったポイント・オブ・ケア超音波は、迅速で正確な診断のため重症で生命危機の病態を覚知するために日常的に使用されています。また、超音波はしばしば輸液反応の評価にも用いられています。そのうえ、早期に生命危機の病態を認識することで、結果的にベッドサイドでの治療を可能にして患者の予後を改善することが知られています。それだけではなく、臨床における超音波の利用は在院期間を短縮し、救急外来の流れを改善させ、患者の満足度を向上させることが明らかになっています。何よりも、超音波は血管穿刺、神経ブロック、膿瘍ドレナージ、心嚢穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺だけに限らない手技のガイドとして用いられる標準的な機器になっており、合併症発生率や死亡率を低下させるようになって来ていることを知ってください。



Course Director :
MacLong Tran

コース開催の目的



Course Coordinator:

児玉 貴光

今日では、臨床医学における超音波の有効性については十分に理解がなされていると思います。救急医療領域において、生命危機に瀕した患者を救命するためには、迅速かつ安全に検査や処置が行える超音波機器を使いこなせるようになることが理想です。

しかしながら、わが国においてはいまだに標準化された教育手法は存在せず、教育が行われたとしてもその効果判定も曖昧なままですまされているのが現状です。一方、米国においては米国救急医学会が米国医師会や関連学会と連携を取りながらエビデンスに基づいた教育を提供しています。米国の救急超音波はわが国の遙か先を行っており、学ぶべき点が多く存在します。このたび、わが国の救急医療レベル向上のために昨年に引き続いて米国から講師を招聘することができました。日本国内に居ながらにして米国内で開催されている教育コースと全く同じプログラムを受講できるようになりました。この機会を逃すことなく、多くの方が本コースを受講されることを期待いたしております。

Course Director: MacLong Tran (Texas Health Presbyterian Hospital (Dallas, Plano, Rockwall, and Allen) and Childrens' Hospital of Dallas)

Instructors: Jeremy Smith (Wenatchee Emergency Physicians, ultrasound Director for a 20-member independent democratic emergency physician group)

Jonathan Purcell (Emergency Medicine Consultants, LTD)、太田智行 (国際医療福祉大学病院 放射線科)、入江仁 (津軽保健生活協同組合健生病院 救急集中治療部)

Course Coordinator: 児玉 貴光 (多治見市民病院 救急総合診療部)

コース顧問: 松本 純一 (聖マリアンナ医科大学 救急医学)

(講師紹介は次頁をご参照ください。)

Emergency Ultrasound Course in Tokyo 4th Aug (Sun), 2019

	Time		Charge	Theme		
Didactic Lectures *	8:00 - 8:20			Registration		
	8:00 - 8:10	10 min	Laerdal Medical Japan	Greeting and Merchandise Explanation		
	8:20 - 8:30	10min	Kodama	Precautions		
	8:30 - 8:40	10 min	Tran	Greeting		
	8:40 - 9:10	30 min	Purcell	Cardiac Echo		
	9:10 - 9:40	30 min	Smith	GB + Renal		
	9:40 - 10:00	20 min	Tran	Aorta		
	10:00 - 10:10	10 min		break		
	10:10 - 10:30	20 min	Purcell	IVC		
	10:30 - 10:50	20 min	Smith	DVT		
	10:50 - 11:30	40 min	Tran	RUSH + EFAST Technique		
	11:30 - 11:50	20 min	Purcell	RUSH Application		
	11:50 - 12:10	20 min	Smith	MD: Miscellaneous (Ocular, Soft tissue / Foreign Body)	Tran	Non-MD: Basics and Knobology
	12:10 - 12:30	20 min		MD: Para- / Thora- / Pericardiocentesis		
		12:30 - 13:30	60 min		Lunch	
Skill Booths	(12:40 - 13:10)	30 min	Cannon Medical Systems & Nippon Sigmax	Greeting and Merchandise Explanation		
	13:30 - 14:00	30 min		Rotation: EFAST, DVT, Cardiac Exams, Aorta / IVC / GB, Miscellaneous (Ocular, Soft tissue / Foreign Body), SonoSim		
	14:00 - 14:30	30 min				
	14:30 - 15:00	30 min				
	15:00 - 15:10	break				
	15:10 - 15:40	30 min				
	15:40 - 16:10	30 min				
	16:10 - 16:40	30 min				
	16:40 - 16:50	10 min	All	Wrap Up		
	16:50 - 17:00	10 min		Closing Remark		

* After each lecture, Japanese instructors will add a comment.

<注意事項>

- ・講義の公用言語は**英語**になります。日本語訳したハンドアウトを配布する予定です。
- ・コースを修了した受講生には、コースディレクターから修了証が発行されます。
- ・コースの前後にアンケートを行う予定です。アンケートの提出がコース修了の条件となります。
なお、アンケートの内容は、無記名化の上で各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。
同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・コースの最中に写真を撮影する場合があります。写真については、各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。
同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・講義の撮影や録画はご遠慮ください。
- ・**キャンセルポリシー**
受講決定後のキャンセルについて、受講料の返還はありませんので予めご留意ください。
- ・付近に昼食を摂ったり購入できる場所はあまりありません。あらかじめご準備くださるようよろしくお願い申し上げます。

講師紹介

	MacLong Tran	Jeremy Smith	Jonathan Purcell	松本純一	児玉貴光	太田智行	入江仁
現職	Texas Health Presbyterian Hospital (Dallas, Plano, Rockwall, and Allen) and Childrens' Hospital of Dallas	Wenatchee Emergency Physicians, ultrasound Director for a 20-member independent democratic emergency physician group	Emergency Medicine Consultants, LTD	聖マリアンナ医科大学 救急医学	多治見市民病院救急総合診療部	国際医療福祉大学病院 放射線科	津軽保健生活協同組合健生病院 救急集中治療部
出身	20004年 Ross University School of Medicine卒	2006年 Albany Medical College卒	2009年 University of Texas Southwestern Medical School卒	1995年 聖マリアンナ医科大学卒	1996年 自治医科大学卒	1997年 信州大学医学部卒	2005年 弘前大学医学部医学科卒
研修歴	・2007年 Wayne State University/Si-nai-Grace Hospital, Emergency Medicine Residency修了 ・Resurrection Medical Center Emergency Medicine Fellowship修了	2009年 Baystate Medical Center, Emergency Medicine Residency修了 2010年 Palmetto Health Richland, Emergency Medicine Fellowship修了	・2011年 University of Chicago, Emergency Medicine Residency修了 ・2013年 University of Texas Southwestern Medical Center Emergency Medicine Fellowship修了		・1998年 石川県立中央病院 初期研修修了 ・2003年 石川県立中央病院 後期研修修了	・1999年 横浜市大医学部付属 病院初期研修修了 ・2001年 東葛病院後期研修修了	・2007年 津軽保健生活協同組合健生病院健生病院初期研修修了 ・2011年 津軽保健生活協同組合健生病院救急集中治療部後期研修修了
資格	医師	医師	医師	医師・医学博士	医師	医師・医学博士	医師
専門資格	Fellow of the American College of Emergency Physicians	American Board of Emergency Medicine	American Board of Emergency Medicine	日本医学放射線学会診断専門医	・日本救急医学会 救急科専門医 ・日本内科学会 認定内会 ・日本プライマリ・ケア連合学会 認定医	・日本医学放射線医学会 診断専門医 ・日本超音波医学会総合指導医	日本救急医学会救急科専門医 日本プライマリケア連合学会認定指導医
メッセージ	This will be our fourth year bringing the Team Ultrasound Workshop to Japan. I look forward to meeting new clinicians and introducing clinical ultrasound techniques to their clinical repertoire! We will be available for training and to answer all of your questions. Look forward to meeting you all soon. Arigato. (日本におけるTeam Ultrasoundによる5度目のワークショップを開催します。新しく医療従事者の皆さんにお会いして、皆さんのレパートリーに超音波を加えるために紹介できることを楽しみにしています。私たちは良い教育を提供し、疑問に答えることができます。もうすぐお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございます。)	Point-of-care ultrasound changed the way I practice medicine, for the benefit of my patients. With this added diagnostic tool at your fingertips you can make informed clinical decisions on critically ill patients, shortens the time to diagnosis and treatment for many diseases, and expedite your patient's care. This will change your clinical practice! (ポイント・オブ・ケア超音波は、患者の利益のために私の診療スタイルに変革をもたらしました。この診断ツールを指先で動かすだけで、情報に基づいて重症患者の臨床判断をくだすことができ、多くの疾患の診断や治療までの時間を短縮し、治癒を促進します。きっとあなたの診療にも変化を与えます！)	I am excited to return to Japan to continue teaching ultrasound and engage in shared learning! My passion is ultrasound in critically ill patients, including use of echo and ultrasound to help guide fluid resuscitation. (超音波を教育を継続してともに学ぶために再び日本を訪れることを楽しみにしています！私は輸液蘇生の指標を検査するための超音波使用を含めた重症患者管理に情熱を燃やしています。)	「よい治療はよい診断から。よい診断はよい検査から。よい検査はよい診察から。」超音波検査は、検査でもあり診察でもあり、基本的診療技術としての位置づけが、もっと広く実臨床の場で共有されるべきだと思います。	救急超音波を学ぶことで、診療に対する自信が増すことは間違いありません。より早く、より安全に、より確実な医療を提供するための武器を身に付けてください！	超音波検査は art と science がせめぎ合う画像診断です。知識と経験のある人がやれば、短時間で効果的な decisionmaking につながりますが、そうでもない人がやれば、それなりです。自身と超音波検査の弱点を認識し、失敗を振り返りながら、日々精進されることを期待します。超音波画像診断は院内外に関わらず、検査室内外に関係なく、あらゆる救急現場に有効です。皆さんと一緒に勉強できることを楽しみにしています。	サチュレーションがバイタルサインの一項目として違和感なく並んでいるのと同じように、POCUS で得られた所見を「検査所見」ではなく迅速に得られる「身体所見」のように扱う日がもうそこまで来ていると感じています。本セミナーのような講習会で基本を押さえ、エコーにアクセスしやすい診療環境を整えることで皆さんの日常診療がより確かなものになることを願っています。